令和7年産雑豆の収穫量と令和8年産雑豆の作付指標面積について

（公財）日本豆類協会

1．令和７年産雑豆の収穫量

農林水産省大臣官房統計部は、令和8年2月27日付けで「令和7年産小豆、いんげん及びらっかせい（乾燥子実）の作付面積及び収穫量」を公表した。ここではその調査結果から雑豆に関する部分を抜粋して、紹介する。

（1）小豆（乾燥子実）

①作付面積

全国の作付面積は2万4,200haで、前年産に比べ200ha（1％）増加した。

②10a当たり収量

全国の10a当たり収量は186kgで、前年産を5％下回った。

なお、10a当たり平均収量対比は100％となった。

③収穫量

全国の収穫量は4万5,100tで、前年産に比べ1,600t（3％）減少した。

なお、都道府県別の収穫量割合は、北海道が全国の97％を占めている。

（2）いんげん（乾燥子実）

①作付面積

全国の作付面積は5,650haで、前年産並みとなった。

②10a当たり収量

全国の10a当たり収量は96kgで、前年産を4％下回った。

なお、10a当たり平均収量対比は86％となった。

これは、主産地である北海道において、開花後に高温が続いたことにより落花がみられ、着さや数が減少したためである。

③収穫量

全国の収穫量は5,430tで、前年産に比べ220t（4％）減少した。

なお、都道府県別の収穫量割合は、北海道が全国の95％を占めている。

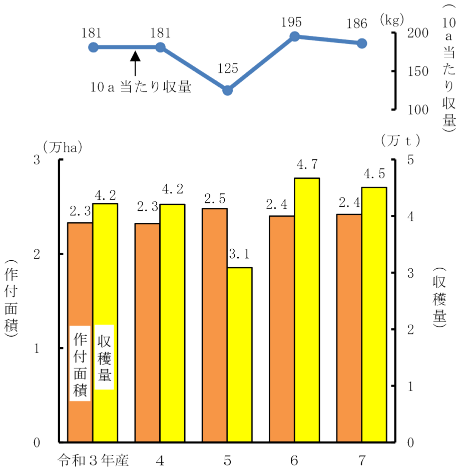

図1　小豆の作付面積、
10a当たり収量及び収穫量の推移（全国）

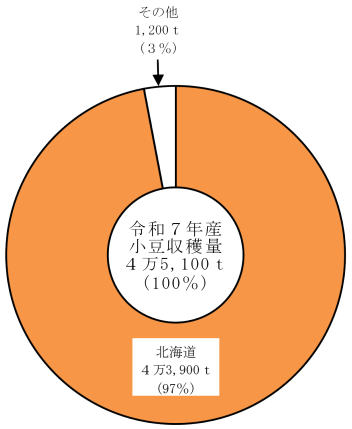

図2　令和7年産小豆の都道府県別
収穫量及び割合（全国）

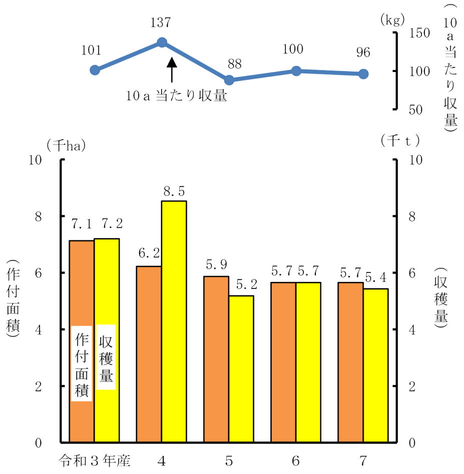

図3　いんげんの作付面積、
10a当たり収量及び収穫量の推移（全国）

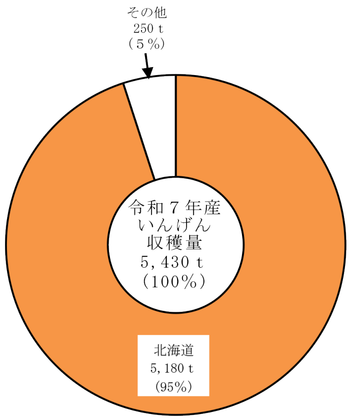

図4　令和7年産いんげんの都道府県別
収穫量及び割合（全国）

表1　令和7年産小豆（乾燥子実）の作付面積、10a当たり収量及び収穫量

全国・都道府県	作付面積	10a当たり収量	収穫量	前年産との比較						(参考)	
				作付面積		10a当たり収量		収穫量		10a当たり平均収量対比	10a当たり平均収量
				対差	対比	対差	対比	対差	対比		
	ha	kg	t	ha	%	kg	%	t	%	%	kg
全国	24,200	186	45,100	200	101	△ 9	95	△ 1,600	97	100	186
うち北海道	21,300	206	43,900	500	102	△ 12	94	△ 1,400	97	98	211
滋賀	118	15	18	10	109	△ 8	65	△ 7	72	18	82
京都	323	28	90	△ 59	85	7	133	10	113	53	53

注1：令和7年産調査については、作付面積調査及び収穫量調査ともに主産県を対象に調査を実施した。なお、作付面積調査は3年、収穫量調査は6年周期で全国調査を実施しており、全国調査以外の年にあっては、主産県調査を実施している（以下統計表2、3において同じ）。
2：主産県調査は、前回の作付面積調査の全国調査年である令和6年産における全国の作付面積のおおむね8割を占めるまでの上位都道府県を調査の範囲としている。
なお、主産県調査における全国の作付面積及び収穫量は、全国調査を行った令和6年産の調査結果を基に、推計したものである（以下統計表2、3において同じ）。
3：「(参考)10a当たり平均収量対比」とは、10a当たり平均収量(原則として前年産を起点とした過去7か年のうち、最高及び最低を除いた5か年の平均値)に対する当年産の10 a 当たり収量の比率である(以下の各統計表において同じ)。

表2　令和7年産いんげん（乾燥子実）の作付面積、10a当たり収量及び収穫量（北海道：種類別）

区分	作付面積	10a当たり収量	収穫量	前年産との比較						(参考)	
				作付面積		10a当たり収量		収穫量		10a当たり平均収量対比	10a当たり平均収量
				対差	対比	対差	対比	対差	対比		
	ha	kg	t	ha	%	kg	%	t	%	%	kg
北海道	5,290	98	5,180	20	100	△4	96	△200	96	86	114
うち　金時	3,700	94	3,480	△50	99	1	101	△10	100	96	98
手亡	1,380	104	1,440	80	106	△18	85	△150	91	63	166

注：「金時」、「手亡」とはいんげんの種類を示す。なお、「金時」には「きたロッソ」を含んでいない。

表3　小豆及びいんげんの作付面積、10a当たり収量及び収穫量の推移（全国）

区分	小豆			いんげん		
	作付面積	10a当たり収量	収穫量	作付面積	10a当たり収量	収穫量
	ha	kg	t	ha	kg	t
平成28年産	21,300	138	29,500	8,560	66	5,650
29	22,700	235	53,400	7,150	236	16,900
30	23,700	178	42,100	7,350	133	9,760
令和元	25,500	232	59,100	6,860	195	13,400
2	26,600	195	51,900	7,370	67	4,920
3	23,300	181	42,200	7,130	101	7,200
4	23,200	181	42,100	6,220	137	8,530
5	24,800	125	30,900	5,870	88	5,180
6	24,000	195	46,700	5,650	100	5,650
7（概数）	24,200	186	45,100	5,650	96	5,430

2. 令和８年産雑豆の作付指標面積（北海道）

（1）小豆

北海道産小豆の供給量回復により、年間消費も着実に増えてきており、更なる北海道産小豆の需要の拡大と定着を図るには、引き続き十分な作付面積の確保を通した安定供給を行っていくことが必須である。

北海道産小豆の目指す姿の実現に向けて、昨年に引き続き令和8年産の作付指標面積は22,100haと定められた。

（2）菜豆類

菜豆類は、和菓子や煮豆など、日本の食文化を支える重要な品目であり、その供給は北海道が支えている。その一方で、菜豆類の作付は、令和7年産で前年対比▲83haと減少傾向に歯止めがかかっておらず、このまま作付の減少が続くと、豆類の供給基盤が損なわれる懸念がある。

このため、増反に向けたメッセージとして、北海道産菜豆類（金時、手亡、えん豆等）の令和8年産の作付指標面積は、6,990haと設定された。

表4　令和8年産雑豆の作付指標面積（北海道）　単位：ha

区分		7年産 実績面積	8年産 作付指標	備考
雑豆	小豆	21,157	22,100	
	菜豆等	5,447	6,990	えん豆等を含む

＊7年産実績面積はホクレン調べ。